



アーティストの演奏活動からみた都市システム

富山大学 社会文化コース
人文地理学研究室4年 竹村優希

1

I. はじめに

1. 問題の所在と既存研究

都市システムとは...

ある都市の経済活動、職業構造、所得、人口等の変化が相互依存関係を通して他の都市に影響を与える国あるいは地域の都市の集合

- ある都市群が都市システムとして認識されるためには
 - 対象する都市の集合に全体的特徴あるいは秩序が存在すること。
 - 都市間に**相互作用(依存)関係**があることのいずれかが都市群に備わっていることが求められる。

2

I. はじめに

1. 問題の所在と既存研究

- 都市間の相互作用関係→**都市間結合**を通して成立する(日野2013)。
- 森川(2016)も、都市システムの研究においては、**都市間の連結関係**に関する研究が重要であると指摘

↓

都市システムを理解→**都市間結合**の把握が求められる。

3

I. はじめに

1. 問題の所在と既存研究

都市間結合の把握方法→二通りのアプローチ

- 都市間を流動する人口、財、情報、資金などを集計して、それを指標にして都市間の結合の強弱および階層関係などを把握する**(日野2013)
→森川(2016)は、市区町村間の人口移動データに基づき、日本の都市システムを考察。
- 特定の個人や組織が形成する都市間関係を分析**
→銀行の本店・支店網の分析を通じて、都市間の経済的連結関係における、階層・非階層性を明らかにした研究(森川1994)

4

I. はじめに

1. 問題の所在と既存研究

- 都市の結節性や規模的差異、地域間相互依存関係を強調する都市システムの研究は、地域分化や地域経済成長の解明に貢献する(森川1990)。
- 都市システムの連結構造は社会経済の発展とともに変化するので、連結構造の変化傾向を知ること重要である(森川2016)。

↓

地域経済や社会経済の変化を知るうえで都市システム研究は有用であると考えられる。

5

I. はじめに

1. 問題の所在と既存研究

- 日本の都市システム研究→**文化的な指標を用いた研究はあまりみられず、社会的な指標や経済的な指標を用いた研究が多い。**
- ✓西原(1980)...都市の文化的機能量としての**演奏会数を指標**として都市の序列を論じた。
- ✓阿部(1992)...1年間に来日した**外国人アーティストの公演日程を分析**し、都市間の比較を行った。

6

I. はじめに

2. 研究目的と研究方法

目的

文化的な指標として日本人アーティストの活動範囲に着目し、日本における都市の階層構造を明らかにすること。

アーティストの活動範囲→アーティストがどの都市の、どのような場所で音楽活動を行ったかを指す。

7

I. はじめに

2. 研究目的と研究方法

対象

ラ・フォル・ジュルネ金沢2016の本公演に出演したアーティスト⇄阿部(1992)は外国人アーティスト

・彼らが2016年にコンサートなどを行ったり、イベントに出演したりした施設を地図上に示した。

・アーティストの出身地別にデータを整理

文化的な側面からみた都市間について考察する。

8

I. はじめに

2. 研究目的と研究方法

・阿部(1992)は情報誌を資料としていたが、掲載地点の範囲が限られていたため、分析の対象から除かれた地域があり、主要都市とそれらの地域を総合的に比較検討することができなかった



本研究では対象アーティストのホームページやfacebook、音楽之友社のweb版コンサート・ガイドなどを用いて彼らのスケジュールや公演記録を調べた。

・アーティスト自身のホームページなどに掲載されていないが、検索をかけてヒットした公演→ホールやイベントのホームページから確認。情報のソースがあやふやなもの以外は除外。

9

II. 研究対象概要

○ラ・フォル・ジュルネ金沢(以下LFJ金沢)

- ラ・フォル・ジュルネ...1995年にフランス西部の港町ナントで「クラシックの民主化」を掲げて誕生したクラシック音楽祭
- 2005年からは東京でも開催され、LFJ金沢は石川県立音楽堂をはじめとした金沢市内中心部のホールや商業施設などで、2008年から毎年ゴールデンウィーク期間中に行われてきた。
- 出演者→金沢以外の開催都市と共通のアーティストもいれば、LFJ金沢の公演だけにしか出演しないアーティストもいる。

10

III. 調査結果

1. アーティストの演奏活動

- アーティストが2016年、1年間にコンサートやイベントなどで演奏活動を行った音楽ホールなどの施設を地図上に示した。



図1a 全アーティストの施設分布
(ホームページなどより作成)

11

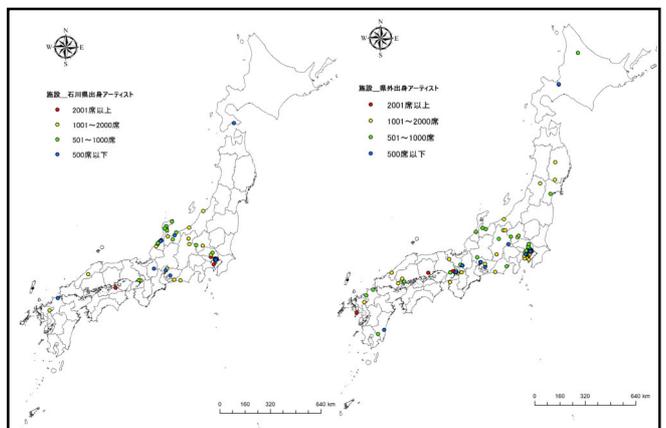


図1b 石川県出身者の施設分布
(ホームページなどより作成)

図1c 県外出身者の施設分布
(ホームページなどより作成)

12

Ⅲ. 調査結果

1. アーティストの演奏活動

- 図2aが石川県出身アーティストの施設, 図2bが県外出身アーティストの施設の密度推定を行った結果で, 色が濃いほど密度が高いことを示している。

どちらも北陸から関東にかけての範囲と近畿地方の辺りの密度が高くなっているが, よく見ると石川県出身アーティストの方が, 北陸の方が色の濃い範囲が広く, 県外出身アーティストの方は狭くなっていることが分かる。関東はその逆で, 県外出身アーティストの方で色の濃い範囲が広く, 石川県出身アーティストの方で狭くなっている。

13

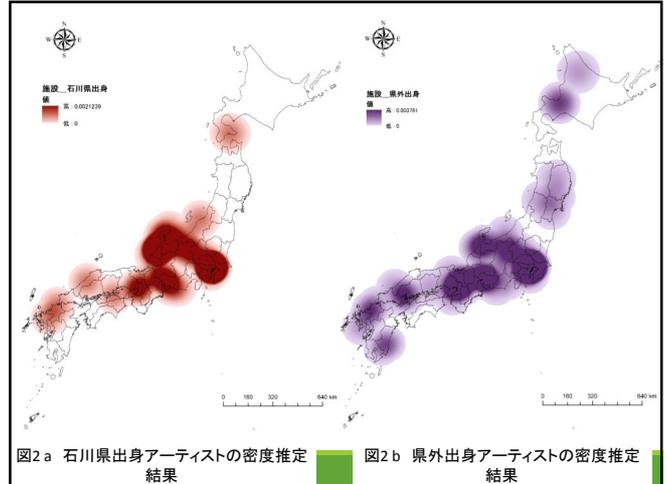


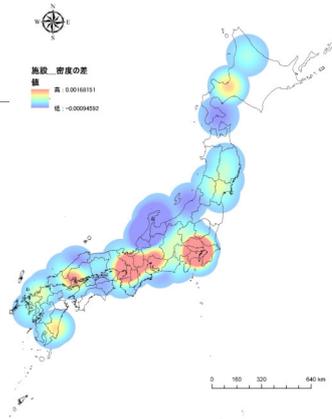
図2a 石川県出身アーティストの密度推定結果

図2b 県外出身アーティストの密度推定結果

Ⅲ. 調査結果

- ラスタ演算によって両者の分布の差を求め, 示したのが図2c. 値が高い(赤い)ほど県外出身アーティストの施設が, 低い(青い)ほど石川県出身アーティストの施設の密度が高いことを表している。

関東・近畿地方は県外出身アーティストの値が高く, 北陸地方は石川県出身アーティストの値が高い。札幌・名古屋・広島辺りも県外出身アーティストの値が高くなっている。



15

Ⅲ. 調査結果

1. アーティストの演奏活動

- 図3a, 図3b, 図3c, 図3d→施設の規模別に分布の差を求めた結果
- 色が青いほど県外出身アーティストの値が高いことを示す。

16

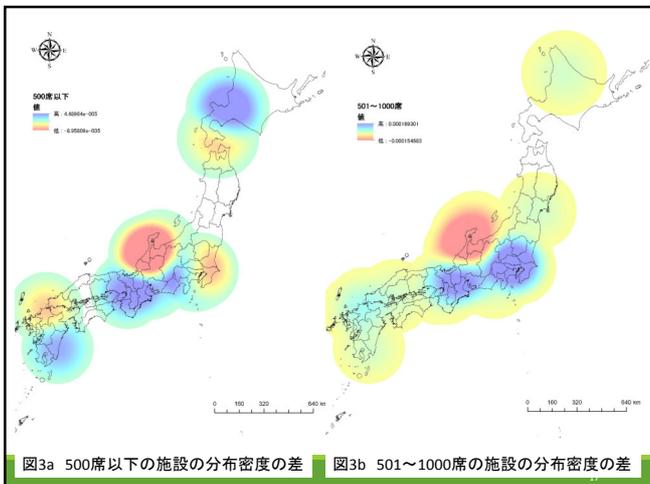


図3a 500席以下の施設の分布密度の差

図3b 501~1000席の施設の分布密度の差

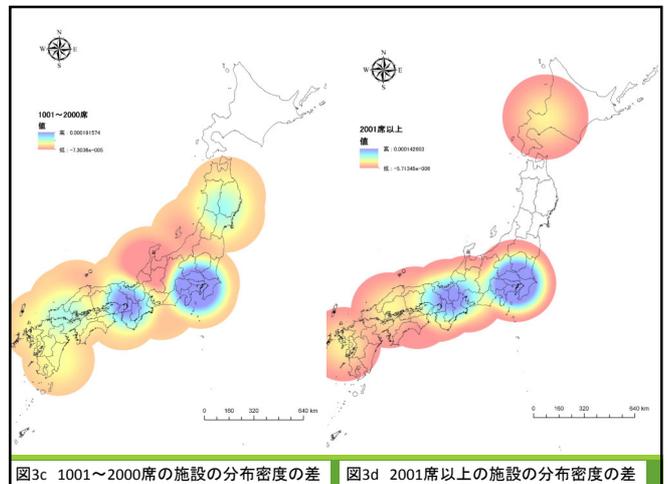


図3c 1001~2000席の施設の分布密度の差

図3d 2001席以上の施設の分布密度の差

Ⅲ. 調査結果

2. 開催頻度からみた都市の序列

西原(1980)は、各都市の演奏会数を指標にして都市の序列を分析しているが、本研究では、アーティストによる演奏活動が行われた施設が各都市にいくつあるのかを指標にして、分析。

- 全アーティストを対象として、施設数の多い順に都市をリスト化したものが表1a.
- 東京が31施設と最も多く、名古屋・金沢・大阪、同率5位で札幌・川崎・京都と続いていることが分かる。
- 第5位までは、金沢を除けば人口が100万人以上の大都市で構成されており、特に東京・名古屋・大阪・京都は、いわゆる6大都市、札幌は広域中心都市と呼ばれている。
- 続いて6大都市の横浜・神戸、広域中心都市の福岡、間にさいたま市を挟み、広島市続く。

19

Ⅲ. 調査結果

2. 開催頻度からみた都市の序列

表1bは石川県出身アーティスト、表1cは県外出身アーティストのデータをまとめたものである。

- 東京が圧倒的に多く、全体の傾向と同様に、そのあとに6大都市や広域中心都市が続く形となっていることが分かる。
- 表1bでは、東京の次に金沢が位置しているが、表1cでは5番目になっている。また、表1bでは大阪・名古屋と七尾市・野々市市が同率順位となっていたり、その他にも石川県内の市町村がみられるが、表1cでは入っていない。
- 表1cでは上位5番目までは6大都市と広域中心都市で構成されている。

20

Ⅳ. 考察

1. 人口規模と開催頻度

- 各都市を人口規模順(表2)、開催施設数順(表1a～表1c)にリスト化し、人口規模と開催施設数との相関関係をみてみると、県外出身アーティストは0.60、石川県出身アーティストは0.28で、石川県出身アーティストには相関が認められないが、県外出身アーティストには開催都市の人口規模と開催施設数は1%水準で有意に相関していることがわかった。
- 先行研究で導き出されたように(西原1980)、6大都市・広域中心都市・首都圏の衛星都市・県庁所在都市という序列を踏まえると、上位6番目までに6大都市のうち3都市が広域中心都市のうち1都市が含まれている。開催頻度が同じ場合は人口順に並べたが、7番目以降も、仙台市を除けば、6大都市と広域中心都市の残りの都市がより上位に位置している。



人口が多いほど演奏会などが行われる頻度も、より高くなると考えられる。

21

Ⅳ. 考察

2. 近接性と開催頻度

演奏活動を行った施設の密度を踏まえると、石川県出身のアーティストは、北陸の値が高くなっている⇒人口規模の要因+**出身地からの近接性**も影響を及ぼしているのではないかと

一口にアーティストといっても、音楽活動だけで生計を立てている人もいれば、音楽活動プラス音楽教室を開いたり、学校の講師として働いたり、後進の指導に力を入れている人もいる。後者のような場合だと、他の仕事もしながらなので、全国各地に赴いて演奏会に出演するというのも難しいのかもしれない。

22

Ⅴ. おわりに

- 本研究では、LFJ金沢という一地方都市における音楽イベントに出演しているアーティストを対象とし、彼らの1年間の演奏活動を指標として都市の階層を明らかにしようと試みた。→6大都市・広域中心都市までの序列が見受けられた。
- 先行研究ではこれらの都市の下に首都圏の衛星都市・県庁所在都市が続くと報告されていたが、本研究の結果からは、明確に同様の序列が存在するといえるような知見は得られなかった。

↑

対象が一地方都市における音楽イベントであったことに加え、分析対象者が出演アーティストの一部に限られていたため、個々人の活動内容の差が反映され、データにばらつきが出てしまったのではないかと

23

参考文献

- 阿部和俊 1992. 来日外国人アーティストの公演日程からみた地域間・都市間比較. 地理学評論 65A(12):911-919.
- 西原純 1980. わが国における都市の文化的機能と都市の序列. 長崎大学教育学部社会科学論叢 30:47-56.
- 日野正輝 2013. 都市システム. 人文地理学会編『人文地理学事典』330-333. 丸善出版株式会社.
- 森川洋 1990. 『都市化と都市システム』大明堂.
- 森川洋 1994. 銀行支店網の分析に基づくわが国都市システムの構造. 人文地理 46(2):46-66.
- 森川洋 2016. 2010年の人口移動からみた日本の都市システムと地域政策. 人文地理 68(1):22-43.

24